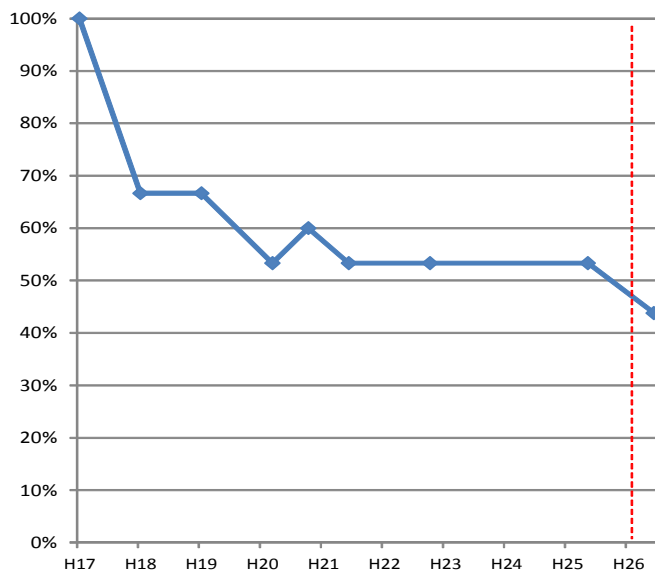


樹種名	カゴノキ (別名: コガノキ)	
科目	クスノキ科	
学名	<i>Litsea coreana</i>	
分布	茨木・石川県から九州の暖地の山野に生え、大きいものは高さ 22 m 程度になる。	
樹木特性	<p>陰樹であり、比較的高齢な森林を構成し、閉鎖された林冠下の暗い環境でも生育できる耐陰性をもつ。生育環境が良好な場合は、寿命は最大樹齢が 100 年以上と推定され、埋土種子は無い。</p> <p>カゴノキの成木は樹皮に特徴があるので山中でひと目でわかる。</p>	
用途	器具材、床柱として利用。薪炭材。	
植栽本数 (植栽密度)	32 本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】 常緑高木であり樹高は 15m 程度になる。樹皮は灰黒色で、まだらにはがれて白い鹿の子模様になる。新枝は褐緑色、細くて無毛。葉は枝先に集まって互生し、長さ 5~10cm の倒卵状長楕円形で先は短くつきでる。基礎部は広くさび形、ふちは全縁。薄い革質で、表面には光沢がある。裏面は灰白色、はじめ長い毛があるが、のちに無毛。葉柄は長さ 8~15mm。雌雄異株。無柄の散形花序に淡黄色の花を数個開き、花期は 8 月から 9 月である。総苞片が 4 個ある。雄花序の総苞片は長さ 3.5~4mm の楕円形。雌花序の総苞片は少し小さく、花の数も雄花序より少ない。花被は有毛で、上部は 6 裂すし、雄花の雄しべは 9 個、花被から長くつきでる。果実は液果、直径約 7mm の倒卵状球形で翌年の秋に赤く熟す。種子は球形から卵状球形、淡褐色で上半部に黒褐色のまだら模様がある。冬芽は長い紡錘形で、短い毛が密生する。花芽は球形で葉の脇に 3~4 個つく。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 1 年で 3 割もの枯死が見られ現存率は 43 % 程度と低い結果 (原因不明) となった。成長量は大きくはないがそれなりに生育している。	 
被害	特になし。	

カゴノキ 現存率



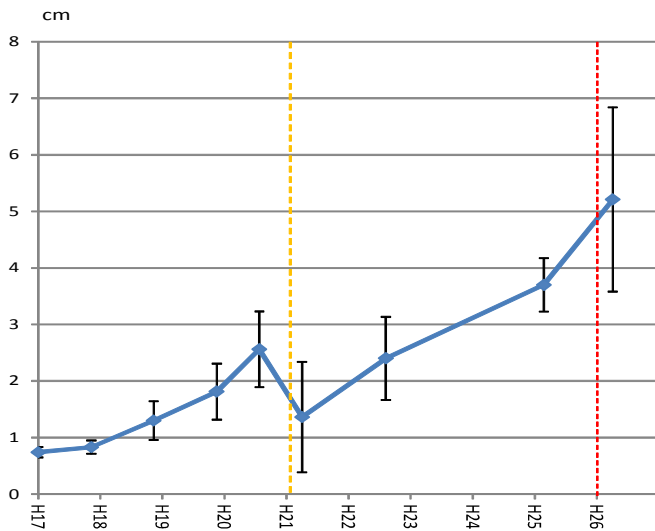
【現存率】

植栽後、1年で3割程度が枯死した。
 また、平成20年頃に枯死した個体から、ぼう芽が発生したが、それらのぼう芽も枯死した。枯死した原因については特定できていない。
 平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は43.8%であった。
 ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。
 平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は5.21cmであった。
 ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
 ※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

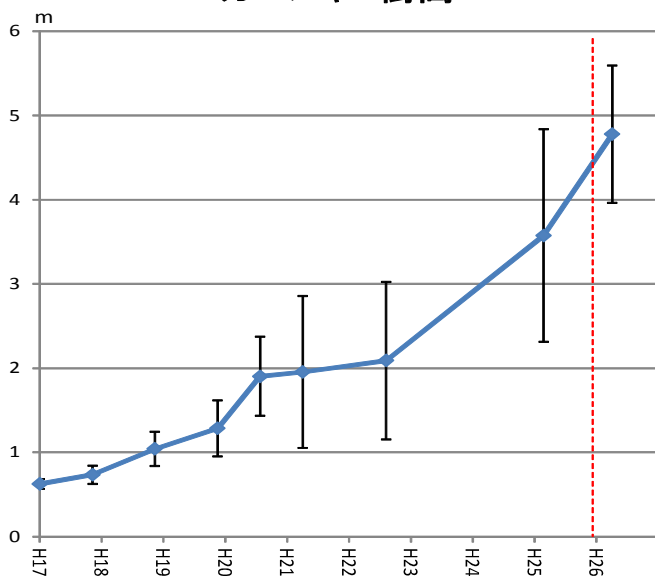
カゴノキ 根元・胸高直径



【樹高】

植栽後、順調に成長している。
 平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は4.78mであった。
 ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

カゴノキ 樹高



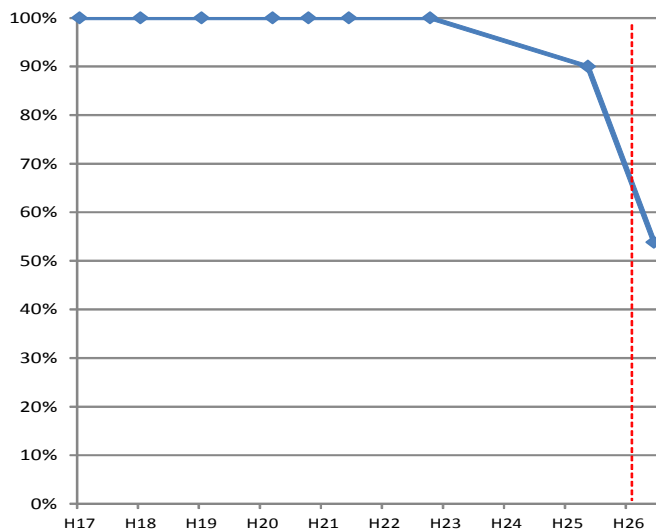
《プチ情報》

カゴノキの名前は「鹿子の木」の意味で、樹皮が鹿のこどものまだら模様になるところからついたものである。

材は堅く、建築材や船舶材、器具材、太鼓や鼓の胴などに用いられる。また、独特の鹿の子模様を生かして床柱にされる。薪炭材としても利用される。

樹種名	カシワ	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Quercus dentata</i>	
分 布	北海道から九州までの温帯から暖帯にかけて生育する。痩せた乾燥地でも生育することから、火山地帯や海岸などに群落が見られることが多い。	
樹木特性	陽樹であり、低地から山地に生育し、海岸林の主要な樹種となるほか、山火事等の攪乱や塩害等のストレスに強い。	
用 途	建築材として利用。葉は、かしわ餅の葉として使用。	
植栽本数 (植栽密度)	13本 (他樹種との混植)	
特 徴	<p>【樹形】 落葉中高木であり、樹高は15m程度となる。葉は大きく、縁に沿って丸く大きな鋸歯があるのが特徴。ドングリはクヌギに似て丸く、殻斗は先がとがって反り返る包が密生する。秋に枯れた葉が春までついたまま、新芽が出るまでは落葉しない。</p> <p>日本の海岸線の防風林には一般的にクロマツが用いられるが、北海道の道北や道東など寒冷でクロマツが育たない地域では、防風林を構成する樹種としてカラマツとともにカシワが採用されることがある。カシワは落葉樹だが、秋に葉が枯れても翌年の春まで葉が落ちないため、冬季の強風を防ぐ効果を果たす。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、シカによる新芽の食害が多く見られたことから、現存率は54%程度であった。このことによって8年を経過しても枯死にはいたらないが、樹高1.5m未満のものが多く存在し平均樹高を下げる結果となっている。また、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害も見られたが、枯死までにはいたらなかった。	
被 害	シカによる新芽の食害が成長阻害の要因となったが枯死までは至っていない。根元にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。	

カシワ 現存率



【現存率】

植栽後、シカによる新芽の食害が見られ、成長に悪影響を及ぼしているものもあるが、枯死までには至っていない。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 53.8%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

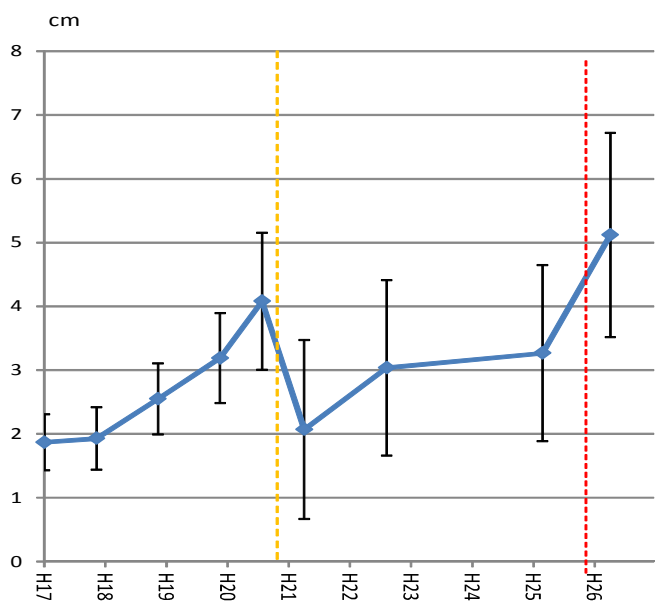
H25.6 時点で数値が減少している理由としては、胸高直径の大きい個体が枯死したためである。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 5.12 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

カシワ 根元・胸高直径



【樹 高】

梢端部をシカに食害され、樹高成長が不良となっている。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 4.09m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



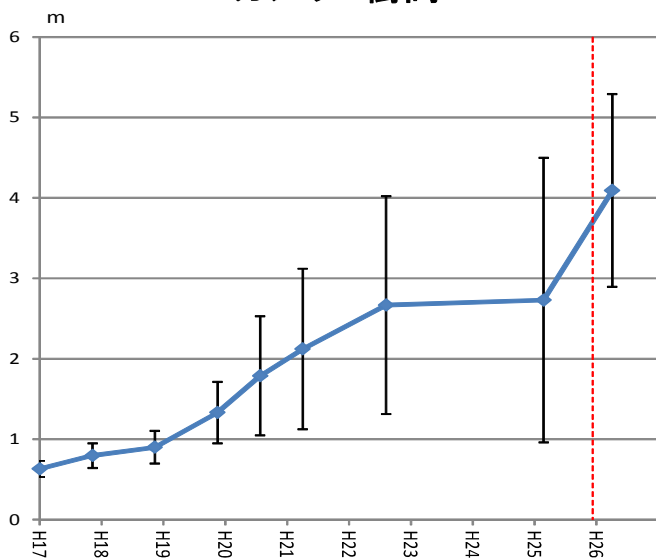
《プチ情報》

葉には芳香があり、さらに翌年に新芽が出るまで古い葉が落ちない特性から「代が途切れない」縁起物とされ、塩漬けにして柏餅を包むのに用いられる。

英語では Japanese Emperor Oak, Kashiwa Oak, Daimyo oak, chêne de Daimyo (フランス語) などと称する。

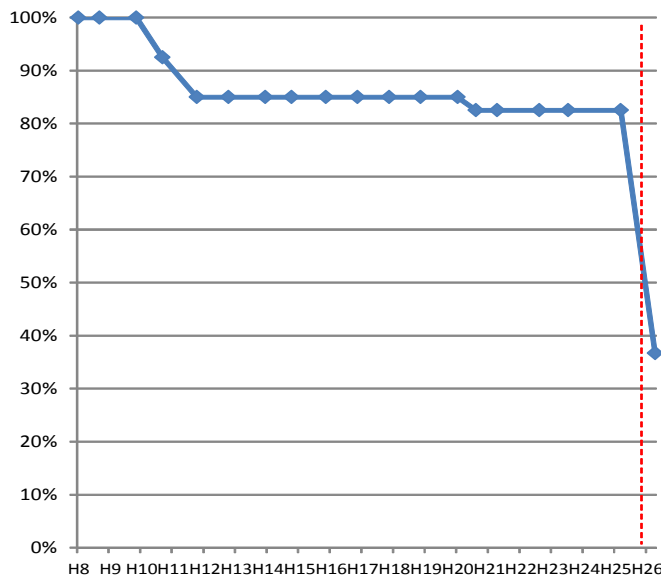
日本では漢字では「柏」と書くことが多いが、漢字の語源から言うと、柏の字の傍の「白」は色の「しろ」ではなく、球果(松かさ状の果実)をかたどった象形文字で[要出典]、「柏」はヒノキ科およびスギ科のさまざまな針葉樹を意味する。コノテガシワのこと、あるいはシダレイトスギ、いぶき・さわら・あすなろなど、松以外の針葉樹の総称である。戦前の植物学では、イチイ科からヒノキ科までの針葉樹は「松柏綱」と呼んでいた。現代中国語ではヒノキ科を柏科という。「松柏類」「香柏(ヒマラヤスギ属、翻訳文学ではしばしばレバノンスギ)」「真柏(しんぱく)・柏真(びやくしん、イブキ)、コノテガシワ」などの柏はヒノキ科の意味である。漢詩などでは、常緑樹であることから、変わらないことの比喻に使われる。千葉県柏市では、シイと共に市の木に指定されている。名古屋市以西では鶏肉のことを「カシワ」と呼ぶ事があるが、これは地鶏の羽色が柏の葉の紅葉の色に似ていることからこう呼ばれる。

カシワ 樹高



樹種名	カツラ	
科 目	カツラ科	
学 名	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>	
分 布	日本各地のほか、国外では朝鮮半島、中国にも分布する。街路樹や公園樹に利用され、アメリカなどでも植栽されている。 日本で自生するものはブナ林域などの冷温帯の溪流などに多く見られる。	
樹木特性	半陰樹であり、山地の渓谷や沢筋に点在して生育する。 樹液を幹が吸い上げる期間では、幹や葉等から甘い芳醇な香りを放つ。	
用 途	材は建築・家具・器具・船舶・楽器・彫刻・鉛筆材に、樹皮は染料、葉は抹香に利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	150 本 / 0.04ha (約 3,500 本 / ha)	
特 徴	<p>【樹形】 落葉高木であり高さは 30m ほど、樹幹の直径は 2m ほどにもなる。 葉はハート型に似た円形が特徴的で、秋には黄色く紅葉する。樹木に近づくと甘い香りを呈する。 成長すると主幹が折れ、株立ちするものが多い。 日本においては山形県最上郡最上町にある「権現山の大カツラ」が最も太く、地上から約 1.3m の位置での幹周りが 20m 近くまで成長している。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し試験地周辺に自生木は見られないが、現存率、上長成長、通直性等も良好である。植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 11 m 程度まで成長している。	
被 害	特になし。	

カツラ 現存率



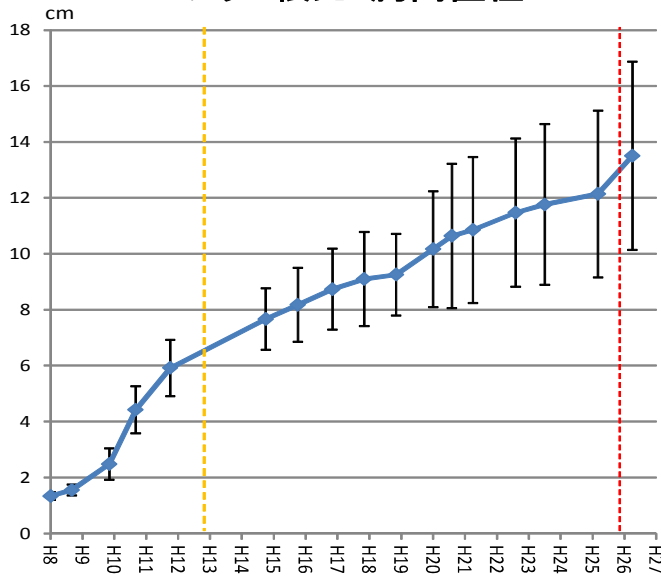
【現存率】

植栽後 2 年を経過した頃に枯死が見られたが、原因は不明である。
 林内の照度調整を図るため、平成 17 年、20 年、24 年度に本数調整伐を実施した。
 平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 36.7%であった。
 ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。
 平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 13.51 cmであった。
 ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
 ※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

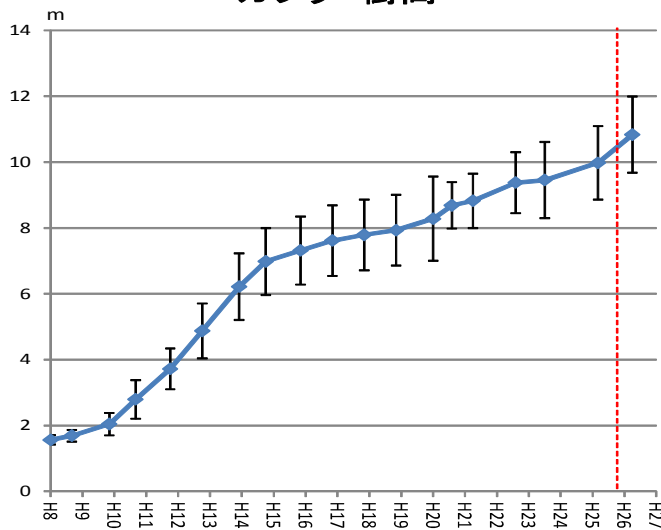
カツラ 根元・胸高直径



【樹 高】

順調に成長している。
 平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 10.83m であった。
 ※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

カツラ 樹高

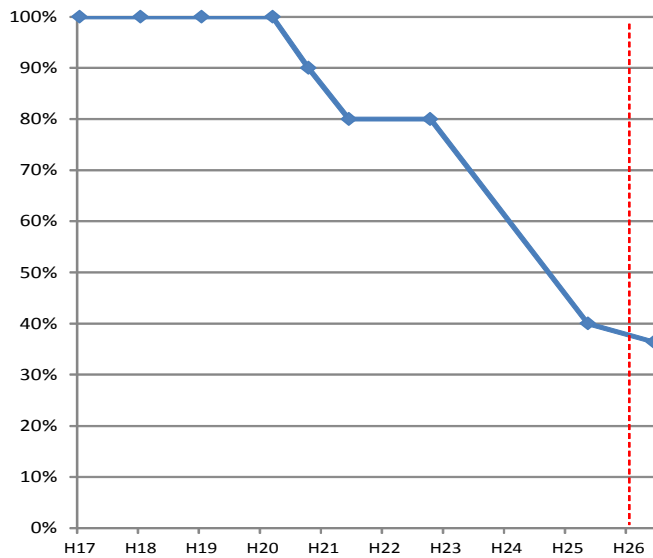


《プチ情報》

中国の伝説では、「桂」は「月の中にあるという高い理想」を表す木であり、「カツラ（桂）を折る」とも用いられる。しかし中国で言う「桂」はモクセイ（木犀）のことであって、日本と韓国では古くからカツラと混同されている（万葉集でも月にいる「かつらをとこ（桂男）」を歌ったものがある）。

樹種名	カリン	
科目	バラ科	
学名	<i>Chaenomeles sinensis</i>	
分布	原産地は中国東部で、日本への伝来時期は不明である。	
樹木特性	カリンはバラ科の落葉高木であり、適湿地でよく育ち、耐寒性がある。 秋に実を熟成させるが、かたく酸味が強いことから生食はできないが、砂糖漬けや果実酒などに用いられている。	
用途	床柱、家具材、果樹として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	11本 / 0.01ha (3,000本 / ha)	
特徴	<p>【樹形】 落葉小高木で樹高は6~10m程度となる。花期は3月から5月頃で、5枚の花弁からなる白やピンク色の花を咲かせる。葉は互生し倒卵形ないし楕円状卵形、長さ3~8cm、先は尖り基部は円く、縁に細鋸歯がある。 未熟な実は表面に褐色の綿状の毛が密生する。成熟した果実は楕円形をしており黄色で大型、トリテルペン化合物による芳しい香りがする。10月から11月に収穫される。実には果糖、ビタミンC、リンゴ酸、クエン酸、タンニン、アミグダリンなどを含む。カリンの果実に含まれる成分は咳や痰など喉の炎症に効くとされ、のど飴に配合されていることが多い。渋く石細胞が多く堅いため生食には適さず、砂糖漬けや果実酒に加工される。加熱すると渋みは消える。 種子に含まれるアミグダリンが加水分解した成分ベンズアルデヒドが、咳止効果があるとされるが、アミグダリンは加水分解により猛毒のシアン化水素も発生するため、国立健康・栄養研究所などが注意を呼びかけている。</p>	
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後4年目から枯死が発生し、現存率は36%と低い値となった。また、3m程度まで成長した個体も枯死したが、原因は特定できなかった。	
被害	特になし。	

カリン 現存率



【現存率】

植栽後、3年目頃より枯死が発生しているが、枯死の原因は特定できていない。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は36.4%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

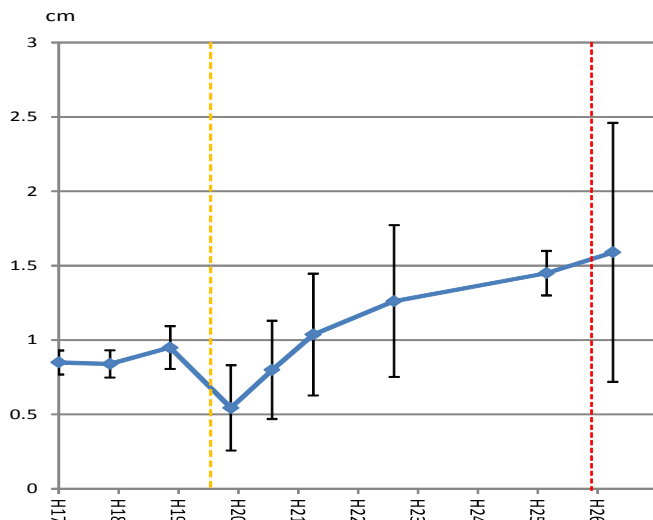
植栽後、3年程度までの初期成長は遅く、その後生存している樹木は少しずつであるが成長をしている。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は1.59cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

カリン 根元・胸高直径



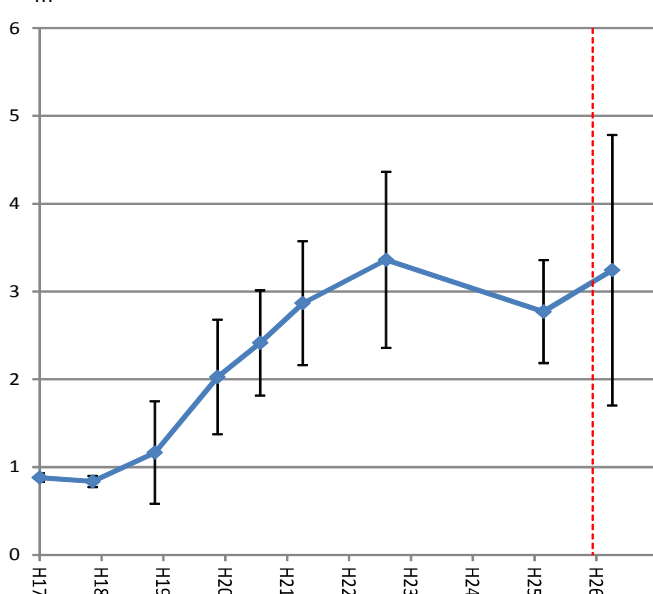
【樹高】

植栽後、3年程度までの初期成長は遅かったが、その後生存している樹木は少しずつであるが成長をしている。また、H25.6で数値が低下している理由は、樹高の高い樹木が枯死したものである。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は3.24mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

カリン 樹高



《プチ情報》

果実は生薬名を和木瓜（わもっか）という（但し和木瓜をボケやクサボケとする人もあるし、カリンを木瓜（もっか）とする人もいる。これらカリン、ボケ、クサボケは互いに近縁の植物である）。

なお、日本薬局方外生薬規格においてカリンの果実を木瓜として規定していることから、日本の市場で木瓜として流通しているのは実はカリン（榎植）である。

花・果実とも楽しめ、さらに新緑・紅葉が非常に美しいため家庭果樹として最適である。語呂合わせで「金は貸すが借りない」の縁起を担ぎ庭の表にカリンを植え、裏にカシノキを植えると商売繁盛に良いとも言われる。